

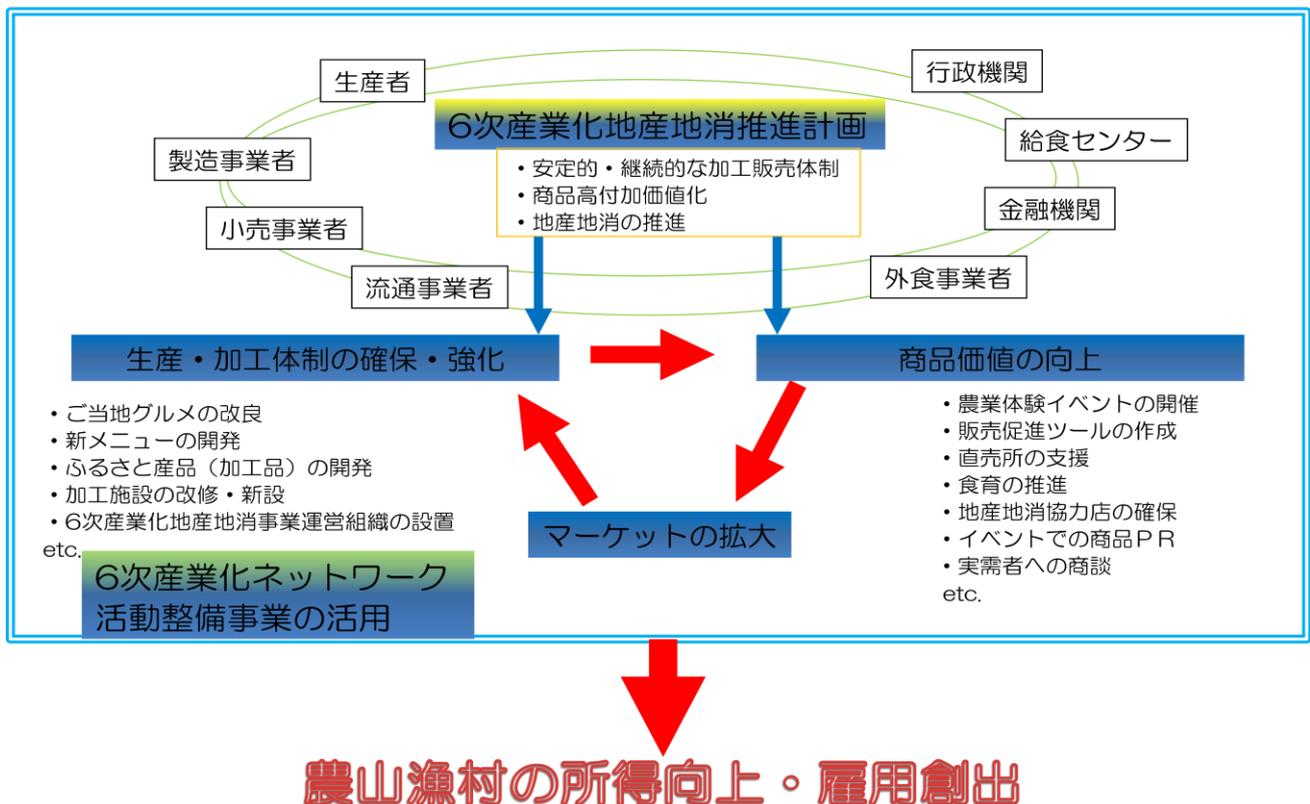
第4章 竹原市6次産業化地産地消推進協議会の設置ならびにプロジェクトチームの発足とその経緯

第3章にてそれぞれの品目別の課題を整理し方針を示したが、今後課題を解決し、事業化をすすめていくために高齢化のすすむ生産者だけでなく、製造事業者・小売業者・流通事業者・外食事業者、給食センター、金融機関、関係会機関、行政が連携していく必要がある。このため、関係機関等との協議を重ね、取組体制ならびに方針をまとめた。

1 関係者団体等との協議～竹原市6次産業化地産地消推進協議会の設置

本計画の策定にあたり、市内農林水産業生産者、流通事業者、小売事業者、飲食店等に参画を求めて設置していた竹原ブランド開発推進会議のメンバーの有志の参画のもとで、竹原市6次産業化地産地消推進協議会設立準備会を立ち上げ、市内の農林水産物主要品目の6次産業化・地産地消に関して市内での進め方や品目ごとのプロジェクト案を作成した。その後、この方針に沿い、竹原市6次産業化地産地消推進協議会を設立するにあたり、市内農林水産業生産者、流通事業者、小売事業者、飲食店、金融機関、給食センターに参加をよびかけ、協議会を設置した。

竹原市6次産業化地産地消推進協議会



2 竹原市6次産業化地産地消推進協議会～企画部会及びプロジェクトチームの設置

竹原市6次産業化地産地消推進協議会は、竹原市6次産業化地産地消推進協議会設立準備会にて協議した全体の企画調整を行う企画部会と品目ごとのプロジェクトならびにイベント出展に関するプロジェクト案を協議し、これらを設置した。今後、プロジェクトチームにおいては、市内事例等を参考に事業を進めるとともに、現在活用の進んでいない品目についても事業化に向け協議し、市内農林水産物の6次産業化・地産地消を推進していくこととなる。ここでは、竹原市6次産業化地産地消推進協議会設立時（H28.12月）に設置したプロジェクトについてまとめる。プロジェクトでは、すでに一定の需要が見込まれる品目について生産者と流通・加工・飲食・小売事業者が協同で体制強化や商品開発をすすめることとしている。

○たけのこ流通加工に関するプロジェクト

たけのこの水煮加工により、通年でたけのこを供給できる体制を構築する。これを活用し、加工・小売・飲食事業者の地産地消商品の販売、学校給食等における地産地消の取組等の実需や新商品開発等による販路拡大に必要な需要等と供給のマッチングをすすめていく。

○ぶどう加工品に関するプロジェクト

約150年のぶどうの産地で、平成30年には樹齢100年のキャンベルのあるぶどうの産地である竹原町吉崎の生産者とともに、継続・発展的なぶどう産地の維持のため、ぶどう加工による販路拡大についてすすめていく。

○ばれいしょの流通・加工に関するプロジェクト

国指定産地品目であるばれいしょは一定の共販率が必要である。共販できない商品について付加価値を高める加工商品の開発を検討していく。

○水産物加工・流通に関するプロジェクト

海ぶどうの生産・調整・販売を中心に、水産物の加工・流通に関して、生産者と加工・小売・飲食事業者との連携を進めていく。

○米粉マッチングプロジェクト

米は生産調整の観点から、主食用以外の米を作付する場合には、国の認定を受ける制度がある。認定を受けるためには、生産した米の全量が最終的に主食用米以外としてどこで消費されるかを示す必要がある。このため、加工・飲食事業者、給食センター等の需要と生産者の供給のマッチングをすすめ、米粉用米の生産拡大を推進する。

○イベント出展・出品プロジェクト

特産品をひろしまフードフェスティバルやひろしま夢プラザ等への出展することで商品の周知を図るため、イベント出品の調整や体制を整える。

また、新たに開発した特産品や販路拡大の必要性のある農林水産物についてイベントや実需者とのマッチング

等により、知名度ならびにブランド力向上に努める。

また、プロジェクトによる事業例・運用事例については、本市において6次産業化に取り組む朝市会をはじめとした生産者組織に波及させることで、6次産業化主体の多様化を図り、実需者のニーズにより多くこたえられる体制の構築につなげていくものとする。

さらに、本市はJR呉線、国道185号線、432号線で東広島市、三原市と結ばれ、国道2号線で広島市、福山市にそれぞれ50kmの距離にあり、山陽自動車道や広島空港にも近く高速交通体系に恵まれており、京阪神市場にも比較的短時間で輸送できる交通条件を活かし、市内だけでなく、市外県外への展開を進めていくことで需要の拡大を図るとともに、商品価値の向上をはかるブランド化や広報戦略を同時に進めることで、農山漁村の所得向上・雇用創出を推進していくものとする。

『新たな特産品づくりとマーケティング強化プロジェクト』

●プロジェクトの趣旨

恵まれた立地環境を活かし、既存の特産品に加え、新たな農林水産品の特産品化やその加工品づくりを促進すると共に、これらの商品を「竹原ブランド」として支援し、総合的な販売促進活動を展開することで、生産者所得の向上に結びつけます。

●プロジェクトの概要

本市の特産品である馬鈴しょ、ブドウなどは、農家の高齢化や担い手の不足等により生産量が減少しています。このため、地域農業を支援する新たな組織を活用した農家の栽培作業の軽減や栽培地の集積などを行い安定生産の推進を行います。

また、広島県推奨品目の導入や市・県・JAによる経営類型別の所得指標の作成及び地域の重点品目を明確にし、新たなブランド商品を創出することで産地形成や担い手の新規事業展開の促進を図ります。

さらに、特用林産の商品化を促進する支援策を構築するとともに、水産物については、新たな魚種の量産体制を研究するため、県・漁協との共同事業を進めます。

これらの流通販売を促進するため、流通拠点施設を核として実需者への啓発活動と出荷者の組織化及び地域食文化の普及・PR活動を更に進めます。

●プロジェクトイメージ

